

子どもたちの命のメッセージ

～テレジンの絵は語り続ける～

◆講演：野村路子のむらみちこ（テレジンを語り継ぐ会代表）



1937年、東京都生まれ。
早稲田大学文学部仏文科卒業。
コピーライター、タウン誌編集長を経て、
ルポルタージュやエッセーを執筆。
1989年、テレジンの子供たちの絵と
出会い、その存在を日本に紹介。その
際、チェコの国立ユダヤ博物館と交渉し、
1991年「テレジン収容所の幼い画
家」を主催。生き残った子供たちのイン
タビューを重ね、現在に至る。

著作：『子供たちのアウシュヴィッツ』（第三文明社）、『テレジン
収容所の小さな画家たち詩人たち』（ルック）、他多数。

75年前、子どもたちは確かに生きていました。

戦争の嵐が吹き荒れる中、理由もない差別や憎悪の対象にされながらも、
勇気ある大人たちの愛情と励ましで、彼らは、必死で絵を描き、
詩を綴りました。遺された絵や詩は、彼らがこの世に生きていたという、
たった一つの証しであり、彼らの最期の声を伝えるものです。
今、平和な時代に生きるあなたに、この子どもたちの声を聞いてほしい。
そして、鉛筆やクレヨンがあり、好きなだけ白い紙に向かえることが、
どんなに幸せなことかを考えてほしいと願います。



イヨナ・ヴァイツゾヴァー 1932・3・6 生まれ
1944・5・16 アウシュヴィッツへ

ナチスドイツは、ユダヤ人
を迫害しましたが、子供たち
に対しても容赦はしませんでした。
その早すぎる「死」が迫る中
で、子供たちと、それを守ろ
うとする大人たちは、どのよ
うに行動したのでしょうか？
最も暗い現代史の1ページ
を、皆さんとともに顧みたい
と想います。

（青木裕司 世界史科講師）



ドリス・ヴァイゼロヴァー 1932・5・17 生まれ
1944・10・4 アウシュヴィッツへ

テレジンの子供たちの絵の謎

◆司会：青木裕司（世界史科講師）



（左）収容所
（右）カポーと呼ばれた収容所の警備員。
笑顔で描かれている。

今から30年前の1990年の春、私は東ヨーロッパ縦断の旅をしました。1989年末に起こった「東欧革命」、これでドミノ倒しのように共産党政権が倒れていったのですが、その後の混沌とした東欧を見たかったからです。

そんな中、訪れたチェコスロヴァキアは比較的平穏でした。そして、プラハのユダヤ人墓地の近くの小さな博物館を訪れました。そこには、強制収容所に収容された子供たちの絵が展示してありました。絵は2種類。すなわち、収容される前の楽しい生活を描いたものと、収容所の現実を描いたものでした。

「なぜ強制収容所で絵を描けたのか？」、「絵の具などはどうやって調達したのか？」、

「この絵を描いた子供たちはどうなったのか？」・・・

いろいろな疑問が瞬時にわき上がってきました。しかし怠慢な私は、日本に戻るとそのことを忘れ、時々うっすらと思い出して「なぜ描けたのかなあ？」と自問するだけでした。

そして今年の6月9日の早朝、NHK-Eテレの番組「こころの時代」で「テレジンの絵は語り続ける」が放映され、「テレジンを語り継ぐ会」代表の野村路子先生のお話を聴くことができました。

これで、30年間くすぶっていた「謎」が解けました。

謎の「答え」は、みんなで確認しましょう！

・・・そこには崇高で、かつ痛ましい歴史がありました。

10月17日(木) 17:30～19:30

池袋校西校舎別館(ツチキンビル) 7E教室

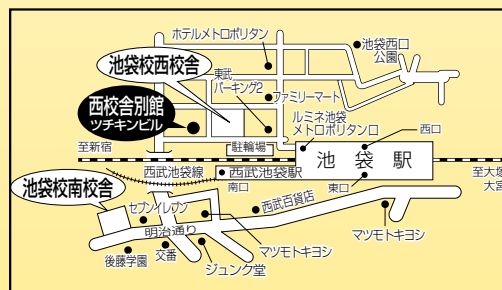


入場無料
申込不要

〒171-0021 豊島区西池袋 1-3-12

☎ 0120-198-630

●JR-西武池袋線・東武東上線・東京メトロ丸の内線・有楽町線・副都心線池袋駅
メトロポリタン口より徒歩1分



※どなたでも自由に参加できます。